

## 講義レジュメ

内容・テーマ： ウェルビーイングの実現の理念と社会 教育	講師： 杏林大学客員教授 清原慶子
	期日： 令和5年10月12日（木）

### 【本講義の趣旨】

- 現在の国の政策等において、これからの生涯学習・社会教育行政が目指すべきものの一つとして【ウェルビーイングの実現】が設定されています。そこで、その概念について説明します。
- 【ウェルビーイングの実現】を目指す、これからの生涯学習・社会教育をめぐる方向性について、【第4期教育振興基本計画】や【第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理】を踏まえて、第12期で話し合われている内容を踏まえつつ共有します。
- そのうえで、参加者の皆様が生涯学習・社会教育の専門職として、諸課題の共有と課題解決の取組みを【自分事】として考えるきっかけを提起したいと思います。

### 【本講義の構成】

1. 目指すべき【ウェルビーイング】の概念について
  - (1) 中央教育審議会教育振興基本計画に係る審議から
  - (2) 第11期生涯学習分科会における審議から
  - (3) 総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループが提案した政策パッケージから
  - (4) こども家庭庁設立・こども基本法施行の趣旨から
  - (5) ウェルビーイングについての指標と調査結果
2. 【ウェルビーイング】の視点から今後の生涯学習・社会教育の在り方を考える
  - (1) 地域の学びと実践プラットフォームの創造
  - (2) 社会教育主事・社会教育士に期待されていること  
～社会教育人材部会の間ままとめから～

### 〔参考文献〕

- 井上昌幸・吉田博彦・清原慶子・黄地吉隆 座談会「2022年度の社会教育・生涯学習の総括と2023年度への展望」『社会教育』2023年3月号 7頁から28頁
- 中央教育審議会教育振興基本計画について答申（令和5年3月8日）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1412985\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1412985_00005.htm)

●中央教育審議会第11期生涯学習分科会における議論の整理

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/1330378\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/1330378_00002.htm)

●総合科学技術会議教育・人材育成ワーキンググループ政策パッケージの概要

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikuujinzai/index.html>

●こども家庭庁・こども基本法について

<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-kihon/>

●中央教育審議会生涯学習分科会配布資料「今後の生涯学習・社会教育の振興方策（重点事項）（案）について」令和5年2月13日

[https://www.mext.go.jp/content/230213-mxt\\_syogai03-000027488\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/230213-mxt_syogai03-000027488_4.pdf)

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 今日における社会教育行政の現状 ～社会教育の裾野の広がり と社会教育人材が果たすべき役割～	講師： 文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐 小山 聡
	期日： 令和5年10月12日

今日における社会教育行政の現状

～社会教育の裾野の拡大と社会教育人材が果たすべき役割～

第4期教育振興基本計画において、今後の教育政策に関する基本的な方針として「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」が記載されており、その中で

- ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充

- ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる

など、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図るためには学校や地域でのつながりや自己肯定感の向上など社会教育が果たすべき役割は大きくなっています。

本講義では、社会教育とは何か。社会教育活動の具体例はどのようなものか。から考え、社会教育の裾野の拡大を理解していただき、その中で社会教育人材（社会教育主事・社会教育士）が果たすべき役割について、理解を深めていただければと思います。

講義では、A4用紙とペンを使用します。各自ご用意ください。どのような用紙でもペンでも構いません。

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 多様なニーズに対応したリカレント教育の 推進	講師： 佐々木 英和
	期日： 10月12日（木）

- 1 なぜ「フロントエンド型」から「リカレント型」へと移行すべきか？
  - a. 「高齢化」＋「社会変化の加速化・複雑化・予測不可能化」→「学び直し」不可避
  - b. 「生活の糧」と「社会発展」との相互依存・相乗作用
  - c. 「リスクリング」を実効化する「リカレント教育システム」
- 2 なぜ「教育者基点」から「学習者基点」へと重心移動すべきか？
  - a. 「生涯教育」から「生涯学習」への発想転換
  - b. 「生涯学習者」の選択肢の一つとしての「リカレント学習」
  - c. 「リカレント学習者」を支える「学校教育システム」を条件整備する方向性
- 3 なぜ「職業人」だけでなく「生活者」全体を視野に入れて条件整備すべきか？
  - a. 多様なライフスタイルへの対応…「フルタイム型」と「パートタイム型」
  - b. 多様なコミュニケーション機会…ヒアナウ・オンラインナウ・オンデマンド
  - c. 時間的条件・経済的条件・身体的条件・精神的条件など
- 4 なぜ「ウェルビーイング」の多様性を教育理論的に整理すべきか？
  - a. 多様な学習内容…「生存確保」「生活快適」「生きがい」
  - b. 多様な学習方法…「学ぶ」「生かす」「交わる」
  - c. 教育・学習における相互性の意義…「教え込み」から「学びあい」へ、  
そして「育みあい」「育ちあい」の関係へ

-----  
〔参考文献〕

佐々木英和「リカレント教育についての歴史的考察—平成の生涯学習振興政策を再考すべき必然性—」、一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部編『社会教育』2019年6月号（通巻876号）、2019年所収、6～16頁。

佐々木英和「政策としての『リカレント教育』の意義と課題—『教育を受け直す権利』を足がかりとした制度設計にむけて」、独立行政法人 労働政策研究・研修機構編『日本労働研究雑誌』2020年8月号（No.721）、2020年所収、26～40頁。

佐々木英和「『フロントエンド型』に対する『リカレント型』の意義—リスクリング政策を失敗させない条件整備—」、一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部編『社会教育』、2023年6月号（通巻924号）、2023年所収、6～15頁。

佐藤晴雄・佐々木英和『社会教育経営実践論』、放送大学教育振興会、2022年。

## 講義レジュメ

内容・テーマ： ウェルビーイングの実現を目指した 社会教育行政の連携	講師： 文教大学准教授 青山 鉄兵
	期日： 令和5年10月12日(木)15:30~17:00

## 講義レジュメ

内容・テーマ	ウェルビーイングの実現を目指した社会教育行政の連携
実践事例名	
事業主体（実施機関）	
連携・協力機関等	
発表者	国立市教育委員会教育部公民館 館長補佐（生涯学習課課長補佐兼任）井口 啓太郎

期日 令和5年 10月 12日

内 容

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 客観的証拠に基づく教育指標とその活用方法	講師：郡谷 寿英
	期日：2023/10/13

1. EBPM 再確認
  - ① 教育振興基本計画
  - ② 統計改革推進会議最終取りまとめ（内閣府）
  - ③ Report of the Commission on Evidence-Based Policymaking（米国）
  
2. エビデンスを生成するための基本的な考え方
  - ① 政策に対する評価とは
  - ② 施策立案に当たって
  - ③ データの種類
  - ④ 記述統計と推測統計
  - ⑤ 施策効果の検証に活用している統計的手法
  - ⑥ エビデンスを生成するための基本的な考え方
  
3. データ分析の流れ（PPDAC サイクル）
  - ① PPDAC サイクルの手順
  
4. 演習（別途、Excel ファイル利用）

-----  
〔参考文献〕

- 1) Commission on Evidence-Based Policymaking 2017 Report of the Commission on Evidence-Based Policymaking
- 2) 文部科学省 2023 第4期教育振興基本計画
- 3) 文部科学省 2018 第3期教育振興基本計画
- 4) 総務省統計局 2021 社会生活統計指標－都道府県の指標－
- 5) 統計改革推進会議 2017 統計改革推進会議最終取りまとめ

## 講義レジュメ

内容・テーマ： ウェルビーイングの実現に向けた地域コミュニティの基盤づくり	講師： 荻野 亮吾（日本女子大学）
	期日： 2023年10月13日

1. 地域コミュニティのウェルビーイング
  - ・ ウェルビーイングの捉え方
  - ・ ウェルビーイングの実現に寄与する要素
2. 生涯学習・社会教育を通じたソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の構築
  - ・ 人と人が交わる「まちの居場所」づくり
  - ・ 地域の社会関係の核となる「関係基盤」づくり
  - ・ 関係基盤同士をつなげる「プラットフォーム」づくり
3. 生涯学習・社会教育によるコミュニティ・エンパワメントの方法
  - ・ 実態把握と将来ビジョン立案を核にした活動の立ち上げ
  - ・ 活動立ち上げ以降の長期的なプロセス・デザイン
  - ・ エンパワメントを促す評価手法
4. ウェルビーイングの実現に向けた生涯学習・社会教育の役割

---

 〔参考文献〕

- ・ 似内遼一・高瀬麻以・荻野亮吾・村山洋史（監訳）『コミュニティを研究する—概念，定義，測定方法』新曜社，2023年。
- ・ 荻野亮吾（著）『地域社会のつくり方—社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』勁草書房，2022年。
- ・ 荻野亮吾「住民主体の地域づくりに向けた学習をどのように進めていくか？—コミュニティ・エンパワメントの方法と評価」『社会教育』927号，2023年，18-24頁。
- ・ 荻野亮吾・丹間康仁（編著）『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイン』大学教育出版，2022年。
- ・ 菅原育子「住民主体の地域活動を支える組織およびコミュニティレベルのエンパワメントとその評価」『社会教育』927号，2023年，26-33頁。



## 講義レジュメ

テーマ	ウェルビーイングの実現に向けた地域コミュニティの基盤づくり
内容	社会教育的なアプローチによる恵庭市の防災の取り組み
事業主体（実施機関）	恵庭市（防災課）・地域（自治会、民生委員等地域住民、学校）
発表者	恵庭市秘書課長 藤野 真一郎（元社会教育主事）

期日 5 年 10月 13日

### 内 容

- 自己紹介 ～ 社会教育との出会い ～
  
- 社会教育主事になってみて…所感
  
- 防災担当者として（気付けば社会教育的なアプローチをしている自分）
  
- 地域防災活動から地域(福祉)活動の創出（こぼれ出た地域活動）を狙って
  
- ウェルビーイングの実現を目指すための社会教育の役割

---

### 〔参考文献〕

恵庭市の地域防災と社会教育の関連については、文部科学省の特設サイトによる社会教育士のPR動画を参照願いたい



## 講義レジュメ

内容・テーマ	1人じゃなくてみんなでなんとかする社会に
実践事例名	地域に密着した多世代交流の実践
事業主体（実施機関）	一般社団法人えんがお
連携・協力機関等	地域自治体 他
発表者	濱野 将行

期日 2023（令和5）年10月13日

## 内 容

徒歩2分圏内に7軒の空き家を活用して行う、子供から高齢者、障がいの有無に関わらず全ての人が日常的に交流する地域コミュニティの実践について。

## 講義レジュメ

内容・テーマ	地域コミュニティの基盤づくり
実践事例名	外国人が能力を発揮できる環境づくり
事業主体（実施機関）	NPO 法人 Gコミュニティ
連携・協力機関等	群馬県、群馬県教育委員会 他
発表者	本堂 晴生

期日 令和5年10月13日

内 容

・はじめに

1. NPO設立の目的と背景にある社会の課題
  - 1.1 NPO 法人 Gコミュニティ 設立の目的
  - 1.2 群馬県における在住外国人の現状
  - 1.3 在住外国人及び日本人が抱えがちな問題
  - 1.4 問題の主な原因は「違いの気づきの有無」と「日本語力」
2. 当NPOの活動のコンセプト
  - 2.1 多文化共生により日本人と外国人の関係が多様に発展
  - 2.2 支援の考え方
3. 事例：人生の選択肢を広げる教育支援の環境づくり（支援のネットワーク）
  - 3.1 NPO 法人 Gコミュニティの取り組み
  - 3.2 NPO 法人 Gコミュニティ 外国人の子どもと親の教育支援の主な取り組み
4. 事例：外国人日本語学習支援ボランティア養成（地域をつなぐ人のネットワーク）
  - 4.1 地域の課題と外国人日本語キーパーソンの役割
  - 4.2 外国人日本語キーパーソン養成による自律的ネットワーク
  - 4.3 外国人日本語キーパーソン養成による変容について
5. 今後の課題と対応

## 講義レジュメ

内容・テーマ: ウェルビーイングの実現を目指す創造性を高めるグループワークの実践について	講師: 松田 道雄
	期日: 2023年10月16日

内容 (全体の中でのグループワークの位置づけを計画する)

講義 (課題提供) : 演習 (グループワーク) : 演習 (全体共有) = 30 : 45 : 25

1. 講義1 ウェルビーイングとグループワークの基本をつかむ
  - 1の1 Well-beingになるには? → Well doing を実感する
  - 1の2 なぜ、主事講習等でグループワークをするの?
  - 1の3 皆が満足するグループワークになるには? → 5つの視点
  - 1の4 コミュニケーションではなく、カンバセーション! (会話教育)  
→ 「等話」をグループワークで心がけ、Well doing の実感を目指す
2. グループワーク1 等話で互いをよく知り合おう!
3. 講義2 ウェルビーイングの実現を目指す創造的なグループワークの要素
  - 2の1 より創造性を高めるには? → 5つの要素
  - 2の2 学習転換の3つのファースト → 学習者、会話、活動
  - 2の3 社会教育士に求める3つの力の本質  
ファシリテーション力は、皆が平等に意見を出し合える民主化の支援  
プレゼンテーション力は、発表と異なり、相手の行動を促す説得性  
コーディネート力は、活動を具現化するための積極的な人への働きかけ
  - 2の4 国の Well-being 施策から社会教育施策の糸口を探す
4. グループワーク2 こんな事業をしてはどうだろう?
5. 全体共有 縁日型で事業アイデアを見せ合う
6. 振り返り 他者の多様な学びから自分の学びをアップデートする
7. まとめ
  - 1 明日の事業立案に活かすために
  - 2 社会教育主事の生涯学習 (現在から退職後までを展望する)

---

〔参考文献〕

- 松田道雄『等話』(新評論、2021年)
- 松田道雄「教育の研修会は学びの実験室!」(「発想する!授業」  
『社会教育』日本青年館、2023年9月号)等、雑誌HPに公開中
- 内閣府 Well-beingに関する関係府省庁連絡会議資料 (HPから)

2023年10月17日

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

15:20-16:50

令和5(2023)年度社会教育主事専門研修

## 今後の社会教育主事に期待すること

鈴木真理

- 1 はじめに
- 2 印象に残る社会教育主事など
- 3 職員の背後にいる研究者
- 4 いろんな(先輩)研究者
- 5 「昔むかしの」職員論
- 6 「技法と内容」という考え方
- 7 社会教育の「いい加減さ」をどう評価するか
- 8 何のための社会教育
- 9 おわりに

---

### [参考文献]

- 鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと-とまれ・生涯学習の・ススメ』学文社 2006年  
鈴木真理『新時代の社会教育』放送大学教育振興会 2015年  
鈴木真理(編集代表)[シリーズ 生涯学習社会における社会教育(全7巻)]学文社 2003年  
鈴木真理(編集代表)「講座 転形期の社会教育」(全6巻)学文社 2015-6年  
鈴木真理・大島まな・清国祐二編『社会教育の核心』全日本社会教育連合会 2010年  
鈴木真理・馬場祐次朗・薬袋秀樹編『生涯学習概論』樹村房 2014年  
鈴木真理・山本珠美・熊谷慎之輔編『社会教育計画の基礎[新版]』学文社 2018年  
山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社 2021年  
小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社 2022年  
鈴木真理・大島まな・大木真徳編『新版 生涯学習概論』樹村房 2023年  
津田英二・伊藤真木子・鈴木真理編『生涯学習と社会教育の基礎』人間洞 2024年  
鈴木真理 masuzuki1951suz@arrow.ocn.ne.jp